

レクチャー・コンサート

アレppoの伝統で学ぶアラブ旋法

演奏:ムハンマド・カドリー・ダラール(ウード)

アブドゥ・ヒンディー(歌)

サラーフ・バクル(リック)

解説:飯野りさ(日本学術振興会 特別研究員(PD))

本発表は、シリアの古都アレppoを代表するウード奏者でかつ伝承歌謡の師匠であるムハンマド・カドリー・ダラール氏と、歌手そして打楽器奏者の三名によるアンサンブルの演奏に筆者による解説を加えて行うレクチャー・コンサートである。アラブ音楽の旋法(旋律様式)の基本をコンサート前半で解説・紹介し、聴き方のコツを体験してから、後半で伝承歌謡であるムワッシャフやカッド、そして詩の朗唱などを含んだアラブ歌謡を伝統的な組曲形式で聴く。

前半の解説は、第35回田邊尚雄賞を受賞した拙著『アラブ古典音楽の旋法体系:アレppoの歌謡の伝統に基づく旋法名称の記号論的解釈』(2017年、スタイルノート)の研究成果に基づいている。アラブ音楽の旋法といえば重要なキーワードとしてマカームがある。しかし、同研究(拙著)は、アレppoの歌謡の伝統を基に、むしろ長年用いられてきたバヤーティーやラーストなどの旋法名称に注目し、この伝統を継承してきた歌謡文化共同体の社会文化的背景とそこで育まれてきた音や音楽に対する感性「タラブ」を踏まえて、これら名称群によって成立してきた旋法体系を明らかにしている。アラブ音楽における旋法は、理論的には使用音階と旋律モデルの二要件で説明される。しかし、同研究では旋法とはなにかという概念ではなく、むしろ、ラーストやバヤーティーという旋法の名称群に注目し、それらのある種の記号と考え、何を指し示しているのか、言い換えるとどのような旋律的響きがイメージされるのかを重視した。この着眼点をごく一部ではあるものの、本発表で体験していただければと考えている。